

第41回「議員と語りかい」報告書

文教厚生常任委員会 (No.1)

開催日	令和 5年 5月19日 13時30分 ~ 15時00分		
開催場所	議会棟4階 第3・4委員会室		
団体名	個人参加	参加人員	15人 (男 7人:女 8人)
出席議員	久保 史睦、山口 仁美、野村 和人、竹下 智行、川窪 幸治 阿多 己清、前川原 正人		
役割分担	班 長 (久保 史睦) 副班長 (山口 仁美) 記録係 (野村 和人)		
テーマ及び具体的な内容	学校に行きづらい子どもたちの教育機会の確保について (3グループに分かれて、それぞれディスカッション形式でご意見等をお聴きした。グループごとに概要を発表し全体共有を図った。)		

意見交換での主な話題等	◆は参加者からの主な話題
	<p>Aグループ</p> <p>学校の現状等</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆山間部の学校では、子どもを中心として一人一人に合った支援が得られる (発達障害・多様性) ◆校則・学習内容など課題が多く、行きづらさにつながる。 ◆PTAの意見も多様化してきているので、学校で決めるには限界がある。 ◆生徒の意見を反映する仕組みづくりが重要。 ◆フリースクール 単位が認められない。 ◆世の中の変化に学校がついていけない。 ◆保護者のつらさ (日々、相談が多くなってきている) <p>居場所づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆選択肢を与えたい (学校・塾・フリースクール) 多様な学びが必要。 ◆適応指導教室は出席扱いだが、教育支援センターしか行き場がない。 ◆既存のサービス以外の選択肢がない

◆は参加者からの主な話題

Bグループ

現状等

- ◆不登校になった子どもの居場所の選択肢は外国に比べて少ない。他の県より鹿児島は少ない。
- ◆学校が苦手な子どもの居場所がない。フリースクールがないため不登校の子どもは教育支援センターしか行き場所がない。しかし、親の送迎が必要で、時間が短い。
- ◆学校教育には子どもの権利条約が抜けている。幼稚園では先生が必ず読む。
- ◆今の教育現場に期待できず、教員になりたくない人が増えている。
- ◆霧島市はフリースクールの必要性を感じていないのではないか。

提案等

- ◆児童クラブの活用もできないか。
- ◆出席日数にカウントできるようになるための学習内容の充実と学校長とフリースクールの連携が必要。
- ◆保護者はフリースクールに教育指導要領、キャリア形成も気にしている。
- ◆市民が力をもって、議員を動かし子どもの学びの場、居場所を作っていく。
- ◆子どもたちは夢がない。キラキラがない。ワクワクの可能性を広げたい。
- ◆学校に行かなかった中高生がeスポーツをすることで、学校に行けるきっかけになった事例もある。
- ◆フリースクールはすぐにできない。行政はやりたい人の思いを汲み取って欲しい。
- ◆具体的にやっている人、思いのある人の言葉を同じテーブルで語り合う場が必要。
- ◆フリースクールは昼、夜開校等、多様な場所があってもよい。
- ◆保護者や子ども等、市民向けにアンケート調査を実施して欲しい。

Cグループ

現状等

- ◆不登校支援に関する情報の不均衡がある。当事者になってから調べても、情報を検索しても、わからない場合が多い。校長によって違いがある。
- ◆不登校に関する情報を、年度当初から 学校だよりなどにて 事前に広報してほしい。
- ◆「ぐんぐんの木」サイトについても、情報が検索しにくい。
- ◆スクールソーシャルワーカーの配置が、福祉サイドになりサポートが不十分である。専門職の方々をどのように配置するのか課題。

意見交換での主な話題等

◆は参加者からの主な話題

提案等

- ◆本人が自ら行ける場所に、支援できる場所があるべきだと思う。
- ◆学びが止まることがなく、学びを保障できる状態にするべきである。
- ◆支援の方法は、多様な方法で、多様な体験活動などが必要である。
- ◆個人が自由に過ごせる場所を通じて、子どもたちを支えるようにしてほしい。
- ◆学童保育等でも、受け入れてほしい。子どもの個性をよく知っている。
- ◆ボーイスカウト・郷中教育・ナイトハイクなどの活動で支援したい。
- ◆「みんなの学校」という映画、大空小学校という公立小学校で精神的にも地域の方々と繋がり、すべての子どもたちに向き合う学校がある。

意見交換での主な話題等